



飯野Iino Elementary School News 小学校だより

2020（令和2）年
8月28日
No.15
校長 原 裕

■ 一番大切にされなければならない人は病気と闘っている人です～新型コロナウイルスに係る人権学習～



新型コロナウイルスに感染した人、その家族、医療関係者などに対する偏見や差別が大きな問題になっています。

今月25日には、文部科学大臣が子どもたち、保護者・地域住民、教職員向けに緊急メッセージを出しました。メッセージは別紙に印刷したものを配付しましたので、お読みください。

飯野小では24日、始業式の後、全学年で、差別や偏見について考える人権学習に取り組みました。（写真は5年生の様子）

高学年では、インターネットやSNSで得た、感染者に関する不確かな情報を拡散しようとしたり、いじめや差別をあおろうとしたりする事例をもとに、差別を解消するためにできることを考えました。子どもたちからは「感染した人の気持ちを想像する」

「差別をしている人がいたら注意し、自分は差別をしない」「先生や親に相談する」などの意見が出されていました。また、相手に差別的な発言を気づかせるために、自分だったらどのように相手に伝えるかなど、具体的な対応方法を考え合いました。

■ 4・5年生 算数科における習熟度別少人数クラス編成について

今年度、飯野小学校は、県の学力向上のための事業を受け、4・5年生の算数における少人数指導を研究することになりました。具体的には、4・5年生に週に各15時間分の教員の配置を受け、子どもたち個々の学習進度に合わせた習熟度別の少人数指導を進めるものです。算数学習での基本的な内容に時間をかける「基礎コース」、算数学習での標準的な内容を中心に、発展的な問題も扱う「標準コース」の2コースに分けて行うことを考えています。少人数で習熟度別に学習することで、子どもの「わかる」喜びや、意欲的に問題を解こうとする姿勢を身につけ、全ての子どもの学力を向上させることを目的としたものです。

コース分けは、子どもたちが前学年までの算数の学習で、どれだけ学習が身についているかを見るテストと、本人の希望を相談しながら決めていきます。コース分けは、1年間を通してではなく、算数の「計算」の単元や領域、「図形」の単元や領域といった学習内容別によって行います。また、コース分けを行わない指導内容もあります。（裏へ→）

授業では、1コースに担任と算数担当教員の2名が配置され、担当します。

あゆみの評価では、「主体的に学習に取り組む態度」の項目を2名の教員が授業の様子や自主学習への取り組み状況をもとに評価します。あゆみのその他の項目は、テストでの理解度を中心に、ノート記述や宿題提出状況などで評価します。

ご不明な点は、担任までお問い合わせください。

■ 自分の命を守るために(防災)

9月1日の防災の日を前に、26日(水)、震度6程度の地震が発生し、理科室より火災が発生したという想定で避難訓練をしました。また、「防災ノート」を使って、事前学習を行いました。



南海トラフ地震は、近い将来起こることが予想されています。鈴鹿市は、最大震度7、最大津波高6メートル、津波1メートルの到達最短時間69分、三重県の避難者数(1日)56万人、建物倒壊23万9000棟、断水170万人、停電110万件、死者4万人以上と、私たちが経験したことのない、被害が想定されています。静岡、和歌山、高知に次いで三重県の被害が大きいことも、この地震の特徴です。誰かがなんとかしてくれると考える規模の地震ではありません。日頃から、保存水や食料などの備蓄、ラジオや懐中電灯など避難生活に必要な必需品などをそろえておくことも重要です。ご家庭では、学校以外の場所で子どもたちが地震に遭遇した時など、連絡方法や集まる場所などを話題にして、そなえるようにすることが大切です。



(上の写真)
2年生での事前学習の様子

(下の写真)
1年生での避難行動の訓練の様子

